



Monitoring Sites 1000



特定非営利活動法人
日本国際湿地保全連合
Wetlands International Japan

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

ウトナイ湖 サイト

—北海道苫小牧市—

ウトナイ湖は、勇払原野の北西部に位置する淡水の海跡湖です。湖には、3本の河川が流入し、美々川から流出して太平洋に注ぎます。ウトナイ湖とその周辺からは、これまで30種ほどの魚類が確認されており、エゾホトケドジョウやベニザケ、カワヤツメ等の絶滅危惧種が確認されています。一方でコイやモツゴ等の国内外来種が多く侵入しています。ウトナイ湖は、日本野鳥の会により日本初の野鳥のサンクチュアリが設置され、ラムサール条約湿地にも登録されています。また、環境省「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定されています。



ゴムボートで調査地点に向かう調査者（2018年6月29日撮影）。南岸の調査地点まではゴムボートに乗って向かいました。



トミヨ属淡水型（2018年6月28日撮影）。オスは繁殖期に体色が黒くなります。北海道では「トンギョ」と呼ばれています。



タモ網での採集の様子（2018年8月29日撮影）。ヨシの根本に隠れている魚を捕まえています。

2018年度の調査結果概要

ウトナイ湖サイトは今年度から新たに設置したサイトです。1回目の調査は6月28～29日に、2回目の調査は8月29～30日に実施しました。定置網に入網した魚類を回収し、種を同定した後、種ごとに総個体数を数え、総湿重量を測定しました。また、定置網で採集しにくい魚種を捕獲するための補助調査として、投網とタモ網を用いた採集を行いました。1回目の調査では約10種、2回目は約12種、合計で約13種の魚類が確認されました。今回の調査では、絶滅危惧種（環境省レッドリスト掲載種）のエゾホトケドジョウ（絶滅危惧IB類）が確認されました。一方、国内外来種で、北海道の外来種リストである北海道ブルーリストに掲載されているモツゴとナマズも確認されました。

個体数で見ると、1回目調査ではモツゴやジュズカケハゼが、2回目調査ではジュズカケハゼが最も多く、モツゴやトミヨ属淡水型も多く採集されました。今回の調査では国内外来種のモツゴが多く採集されました。エサ資源等をめぐり、在来魚類との競合が懸念されます。

【調査者・調査協力者】 岸田 治・奥田篤志・五十嵐 進・三好 等・汲川正次・佐藤智明・内田次郎・松岡雄一（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 苫小牧研究林）、井藤大樹（日本国際湿地保全連合）※日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ・ネイチャーセンターの協力も受けて実施



モツゴ（2018年6月29日撮影）。元々北海道には分布していなかった国内外来種です。たくさん採集されました。



定置網を設置する様子（2018年8月29日撮影）。この調査地点は遠浅で、岸からかなり離れても腰ほどの水深です。



エゾホトケドジョウ（絶滅危惧IB類）（2018年8月29日撮影）。体長3cmに満たない小さな個体が採集されました。



ナマズ（2018年6月29日撮影）。体長57cmの大きなナマズが定置網で捕れました。国内外来種です。

速報：モニタリングサイト 1000 陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

達古武湖 サイト

—北海道釧路町—

達古武湖は、釧路湿原東部に位置する淡水の海跡湖です。湖には、およそ6本の河川が流入し、達古武川から流出して釧路川に合流した後、太平洋に注ぎます。達古武湖とその周辺からは、これまで20種以上の魚類が確認されており、ヤチウグイやイシカリワカサギ、エゾトミヨ等の日本では北海道にしか生息していない貴重な魚類が確認されています。本湖は、釧路湿原国立公園内に位置し、ラムサール条約湿地にも登録されています。また、環境省により、外来種であるウチダザリガニの駆除や自然再生事業が実施されています。



ヤチウグイ（準絶滅危惧）（2018年7月4日撮影）。
名前に「ウグイ」と付いていますがタカハヤやアブラハヤの仲間です。



太平洋系降海型イトヨ（2018年9月6日撮影）。
海で成長し、産卵のために川を上ってきます。



調査地の風景（2018年9月6日撮影）。
調査地点まではカヌーに乗って行きます。

2018年度の調査結果概要

達古武湖サイトは今年度から新たに設置したサイトです。1回目の調査は7月3～4日に、2回目の調査は9月5～6日に実施しました。定置網に入網した魚類を回収し、種を同定した後、種ごとに総個体数を数え、総湿重量を測定しました。また、定置網で採集しにくい魚種を捕獲するための補助調査として、投網とタモ網を用いた採集を行いました。1回目の調査では約18種、2回目は約20種、合計で約24種の魚類が確認されました。今回の調査では、エゾホトケドジョウ（絶滅危惧IB類）、カワヤツメ（絶滅危惧II類）、エゾトミヨ（絶滅危惧II類）、ヤチウグイ（準絶滅危惧）等の絶滅危惧種（環境省レッドリスト掲載種）が確認されました。一方、国内外来種で、北海道の外来種リストである北海道ブルーリストに掲載されているモツゴが確認されました。

個体数でみると、1回目調査ではジュズカケハゼやフナ類が、2回目の調査ではジュズカケハゼやフナ類に加え、イシカリワカサギも多く採集されました。達古武湖では初めてモツゴが確認され、在来生物への悪影響が懸念されます。モニタリングを継続し、増減などについて注視していく必要があります。

【調査者・調査協力者】針生 勤（釧路自然保護協会）、照井滋晴（環境把握推進ネットワークPEG）、宮田 亮（環境省生物多様性センター）、井藤大樹（日本国際湿地保全連合）



アメマス（エゾイワナ）（2018年9月5日撮影）。
海に降るものをアメマス、陸封されたものをエゾイワナと呼びます。



採集した魚類をソーティングする様子（2018年7月3日撮影）。
現地で素早く種を同定し、トレーに分けています。



ドジョウ（2018年7月4日撮影）。
定置網で採集されました。全長30cmに迫る特大サイズでした。



達古武湖の夕暮れ（2018年9月5日撮影）。
釧路の雄大な自然の中で調査を行いました。